

筑波大学新聞

第323号

編集責任 筑波大学新聞 編集代表 福原直樹
TEL: 029(853)2040・6699
E-mail: shinbun@un.tsukuba.ac.jp
月刊

発行所 筑波大学 茨城県つくば市 天王台1-1-1

紙面から

TIAS	国際スポーツの先導者育成	2
欧州見聞録	ドイツ難民殺到で対応限界	4
絶対音感	1年生堂々の初舞台	5
柔道	世界選手権 永瀬が「金」	8
蹴球部	総理大臣杯 10年ぶりの3位	9
鳥人間コンテスト	5年ぶりの完走に歓喜	10
ミニ特集	3	3
就活の後ろ倒し	学生から不満	
特集	6,7	6,7
国立大 文系縮小問題	筑波大どう動く	

東日本豪雨 物資を輸送 心のケアも



家屋の浸水被害で出た大量のごみの撤去作業を手伝う学生ら (9月21日、常総市水海道で)

9月10日に起きた東日本豪雨で鬼怒川の堤防が決壊し、甚大な被害を受けた茨城県常総市。筑波大学の学生や教職員らは災害発生直後から支援活動を行っている。その中で同大学院社会学専攻は11日から、教員が同市に連絡し、地元の要望を踏まえながらボランティアの学生を募集。14日から教職員、学生が現地へ活動し、10月1日現在で延べ70人の学生を派遣している。現地では学生2人の活動を追った。(新田明夏社会学専攻3年、写真も、11面に関連記事)

21日の朝、常総市役所。任詩文さん(社会学専攻1年、中国出身)、郭恩志さん(同1年・台湾出身)の2人が一般の人々のボランティアの受け付けをしていた。常総市に住むという年配の夫婦や20代前後の男性6、7人。受付に並ぶボランティア志願者たちに、任さんらは受付票を渡した。受付票にはボランティアらが住所などを記入。それを基に市側が配置先などを決める。



1階部分が浸水し、床のタイルがはがれた常総市役所 (9月21日、常総市水海道で)

この後、2人は市役所近くの水海道地区で浸水被害にあった家屋でのごみの撤去作業に参加した。周辺の民家付近には大量のごみ袋が積み上がり、壁には浸水の跡が残る。庭には消毒用の石灰がまかれ、白いまだら模様が目立つ。この後、2人は市役所近くの水海道地区で浸水被害にあった家屋でのごみの撤去作業に参加した。周辺の民家付近には大量のごみ袋が積み上がり、壁には浸水の跡が残る。庭には消毒用の石灰がまかれ、白いまだら模様が目立つ。

その家の住人は「ごみの撤去作業は一人ではとてもできないので、手伝ってもらいたい」と話した。また、水海道地区について、「同地区を流れる鬼怒川はこれまでにも大きな洪水を起こしてきた。今は昔から土地に住んでいる人に話を聞き、土地の特徴を理解した上で対策に乗り出すべきだ」と話していた。

一方、郭さんは「台湾では災害時に大学の教員などが率先して行動を起こすこととはあまりない。今回のボランティアに参加して力になれてうれしい」と話した。

筑波大では、硬式野球部のメンバーも15日に支援活動を行った。また、筑波大付属病院の精神科と、災害時の心のケアについて教育研究活動を行う災害精神支援学講座(医学医療系)は、県立こころの医療センター(茨城県笠間市)などと連携し、災害直後から被災者の心理的な負担の軽減などを行っている。

また、筑波大付属病院では、10日に災害対策本部を設置。浸水した常総市の病院などから患者15人を受け入れた。さらに大学では15日、21日に飲料水や非常食などの支援物資を常総市に提供。今後もボランティアを学内で募集し、義援金も募る。

一方、常総市に住む筑波大の学生や教職員で、自宅が浸水被害などに遭った人は56人に及んだ。筑波大はこれらの被災者に宿舍の貸与を検討している。

処分費 昨年380万 共益費から

学生宿舍付近に長年、家具や家電が大量に不法投棄され、平成23年度から昨年度までの過去4年間だけで共益費から約150万円の処分費用を支払っていたことが、学生生活課と学生宿舍管理事務所への取材で分かった。学生だけでなく、学外者も投棄していたとみられ、同事務所はすでに中央署に通報している。同事務所によると処分費用が減少すれば、昨年廃止された宿舎入居者へのごみ袋の無料配布を再開したり、補食室などの共用スペースの清掃回数を増やすなどの改善ができるという。(山野拓実社会学専攻2年、写真も、10面に関連記事)

長年状況変わらず 不法投棄の現場は平砂。追越・一の矢の各宿舎にある燃えるごみやびん・かんなどのごみを捨て場周辺。3. たまり場があり、最大のも

宿舎を問う

約64四方のスペースが、約100の高さまでごみで埋め尽くされている。年度末で引っ越しが増える3月や短期入居者が退去する8月になると、不用になった椅子やパソコン、冷蔵庫、洗濯機、マットレスなどが山積みになる。一定の期間が経つと管理事務所が回収業者を雇いごみを処分するが、昨年度処分されたごみは約73ト。処分費用は約380万円で、学生が宿舍の寄附料と共に毎月収める共益費(一般単身では6830円)の一部から負担されている。

不用になった家具は、粗大ごみとして市に処理を頼むなど、市が指定する方法で処分しなければならぬ。学生生活課は「宿舎を出る学生や卒業生が、処分した家具や家電を軽気持で投棄しているのだから」と指摘する。

学外者も投棄?

また、学生が捨てるごみは、考えにくい業務用の大型冷蔵庫や屋台用の鉄板、大量のテレビが捨てられたケースもあり、「学外者がどこかで処分できることを聞きつけ投棄しているのでは(学生生活課)ともいう。同課によると、かなりの以前から宿舎敷地内で大量の不法投棄が続いており、これも共益費などで処理していたという。この対策として08年に「仮設粗大ごみ置き場」を設置、そこに不法投棄物を集めた。ここへの投棄は禁止されているが、増加していったという。

不法投棄を行う人間は次第に増加していったという。



ごみ置き場付近に不法投棄されたごみ (9月30日、一の矢学生宿舎で)

LGBT支援体制の確立へ

対応をマニュアル化

ダイバーシティ推進室 筑波大学が性的少数者(LGBT)の学生への対応方法を学内で共有する。今年度内に完成させ、ネットに公開する予定だ。こうしたLGBTの学生に対する全学的な取り組みは国立大学で初めて。同推進室によるとマニュアルには、学生に対応する部署や対応方法を掲載する。例えば、LGBTの学生が体育の授業で更衣室を使う場合や健康診断を受ける場合などは、それぞれの対応組織である体育センターや保健管理センターに相談し、別室を設けるなどの個別対応をしてきた。

これまで、筑波大では相談ごと言葉で性的に少数派の人を指す危険する声も多い。政府は「戦争のリスクは減る」と言いつつ、自衛隊は「抜かずの刀」であり続けられるのか、世阿弥の有名な訓戒にある「初心忘るべからず」とは、物事を始めるときに抱いた気持ちや感覚を忘れてはならない、というのだが、実はもう一つの意味がある。10年目、20年目、30年目……。その時々になって初めて感じるもの、つまり「時々々の初心」を成長の糧にせよ、との意味だ。終戦から今年で70年。集団的自衛権の限定的な行使容認という「時々々の初心」は、果たして未来への糧となるのか。一人ひとりが多様な意見を耳を傾け、国の現状や方向性を考え続けることで生まれる「初心」こそ、平和への糧としたい。

学内で共有していなかったため、LGBTの学生はどのような対応・支援を受けられるのかわからなかった。大学は対応方法を共有し、窓口を統一することで、学生が相談しやすい環境を整えたい意向だ。

また、LGBTとその支援者が運営するサークル「じじろ」とも連携。「じじろ」に所属する学生に大学への要望などを同推進室の職員が聞き取り、改善を図る。同推進室担当者は「過去に『男性の格好ではあるが心は女性なので女子トイレを使用したい』という相談もあった。全ての要望に応えることは難しいが、相談や要望に応じて支援の内容を拡充していきたい」と話した。

(油布知夏社会学専攻3年)

●LGBT(レズビアン)(女性同性愛者)、ゲイ(男性同性愛者)、バイセクシャル(両性愛者)、トランスジェンダー(心と体の性が一致しない人の頭文字をとった言葉で性的に少数派の人を指す)

筑波お話し

東京国立博物館に「観世正宗」という日本刀がある。1868年の江戸城無血開城の際、幕府側が江戸城の大広間に置いた観世正宗を、新政府側の有栖川宮が取り上げる儀式が行われた。刀名の由来は、観阿弥と世阿弥の流れを汲む能の流派「観世流」が所蔵していたこと。能は「鎮魂の芸術」と称され、盲人や子を失った母などを題材に、運命の悲しみの中に見える生命の輝きを描き出す。その家に伝わる名刀が、無血開城の象徴となった。安全保障関連法が9月19日に成立し、集団的自衛権の限定的な行使が認められた。この夏、例年通り各地で鎮魂の祈りが捧げられたが、同法に平和を

東京五輪に向け2組織新設 独自の取り組み進む

国際スポーツの先導者育成

つくば国際

スポーツアカデミー
国際的なスポーツイベントの運営者や、国際オリンピック委員会(IOC)の幹部などとして活躍する人材を育成する、大学院博士前期課程の専攻「つくば国際スポーツアカデミー(TIAS)」が筑波大学に新たに設置され、12カ国18人が1期生として入学した。9月30日に大会会館で入学式が行われ、IOC理事や文部科学省の五輪・パラリンピック担当者が出席した。

同アカデミーは、2020年の東京五輪・パラリンピックに向けて設立された。スポーツイベントの運営方法やアンチ・ドーピングなど、スポーツに関するさまざまな分野を総合的に学習する。修了に要する期間は18カ月で、授業はすべて英語で行われる。入学式で、TIASのアカデミー長に就任した真田久教授(体育系)は「学生の皆さんも五輪・パラリンピックのレガシー(遺産)となる。国際スポーツ界を先導する人材になってほしい」とあいさつした。入学者の



嘉納治五郎像の前で記念撮影する入学者(9月30日、大会会館前) = 岡田優太(社会学類1年)撮影

治療とりハビリ一貫支援

健康科学センター

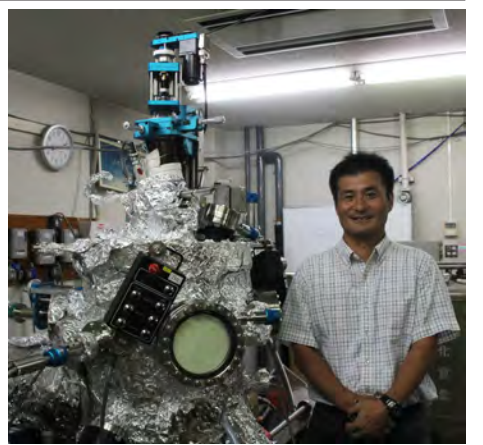
つくばスポーツ医学

筑波大学は、スポーツ選手の治療から復帰までを一貫して行う「つくばスポーツ医学・健康科学センター」を10月1日に筑波大附属病院内に設置した。医学と体育学の研究者を擁する筑波大独自の取り組みで、2020年の東京五輪・パラリンピックに向け国内トップレベルの治療・リハビリ体制の確立を目指す。

同センターには筑波大でスポーツ医学に携わる研究者や臨床医など約20人が参加。スポーツ障害や生活習慣病を改善・予防する方法などを研究し、治療やリハビリを併せて行う。スポーツ選手の故障やけがは、治療と復帰までのトレーニングが別の施設で行われることが多く、一貫した支援を行いつづけたが、同センターでは治療から復帰までを一貫して支援することでスムーズな競技復帰ができる。

同センターのアドバイザーを務める、ソウル五輪銅メダリストの山口香(体育系)は「アスリート以外にも、スポーツに関わるさまざまな人に利用してもらいたい」と期待を寄せた。(新田萌夏)

高効率の太陽電池を開発 商品化に向け研究進める



バリウムシリサイド太陽電池を作る装置と末益教授(9月3日、工学系学系G棟)

開発中の電池はシリコンにバリウムとストロンチウムを合わせた半導体「シリウムシリサイド」を用いている。バリウムは消化器のレントゲン診断の造影剤に使われ、ストロンチウムは骨腫瘍の痛みを緩和剤に利用される。どちらも比較的安価で、大量生産に向いている。

シリコンは従来の太陽電池でも使われているが、バリウムとストロンチウムと合わせることで半導体の性質を変え、光を吸収する性能を高めた。その結果、従来のものに比べ約100分の1の厚さで同じ光の量を吸収できる半導体の開発に成功。効率良く電気を生産できるといふ。

今後はバリウムシリサイドの製造法を改良し、発電効率の向上を目指す。末益教授は「商品化には半導体の表面をなめらかに整える加工処理が必要。研究を進める方法をみつけたい」と話している。

安保法 筑波大でも討論集会

学生や教員ら60人参加

9月19日に参議院を通過して成立した安全保障関連法案は、筑波大学でも大きな議論を呼んだ。8月4日には学内で「安保法案について考える討論集会」が行われ、約60人の教員や学生が参加した。

集会は、「安全保障関連法案に反対する学生の会」に賛同する佐藤嘉幸准教授

(人社系)や、本法案に反対する学生団体「SEALDs」の幹部の諏訪原健さん(教育専攻1年)らが企画。全国的に議論が広がる安保問題について、筑波大でも議論の場を作ろうと考えたのがきっかけだった。

まず、討論の前に発起人2人が持論を発表した。佐藤准教授は「現行憲法下では集団的自衛権は認められていない」と強調。「一内閣の決定で、改憲と大差ない解釈変更を行うことは許されない」と主張した。

「SEALDs」で活動を行う諏訪原さんは、「政治とは、その時代で何が大切なのか、という価値を選択する行為だ」という自説を展開。集団的自衛権が行

使される条件の一つ「存立危機事態」の曖昧さを指摘し、内閣による判断基準が異なる可能性があることなどを批判した。

その後、来場者の発言時間になると、法案に対するさまざまな意見が寄せられた。特に国会前などで行われている安保反対デモについては、多くの声があがった。法案に賛成する学生は「デモをして法案が廃案になるとは考えられない」と疑問を呈した。また、「法案の内容と違憲性のどちらに反対なのかを、なぜ反対す

るかを表明した上で法案の賛否を論じるべきだ」と述べた。一方、哲学が専門の津崎良典准教授(人社系)は「法案に全面的に反対とした上で、フランス語では『投票も声を上げることも同じ』ヴォワ」という言葉が使われることを紹介。選挙だけでなく、デモを通じて国民が声をあげることも民主主義のあり方の一つだと述べた。

日本政治学合理理事長の辻中豊教授(人社系)は「SEALDs」に代表される若者の政治参加を「自由民

貴重な数学書を展示

磯田教授らが企画

筑波大学が所蔵する数学書などを展示する特別展「数学の叢書とその探求と発展」が9月28日から



展示品を覗き込む来場者(9月29日、中央図書館)

中央図書館で開催されている。筑波大生や大学見学者、来た高校生などが会場に足を運ぶなど好評だ。

今回の特別展は、数学教育が専門の磯田正美教授(人間系)らが数学の面白さを伝えようと企画。磯田教授が15年以上にわたり、筑波大の附属図書館に寄贈してきた世界中の貴重な数学書を幅広く扱っている。29日には、磯田教授が来場者に展示品を紹介するイベントを開催。磯田教授は「古代ギリシア圏では数学は算術や幾何学だけでなく、天文学や音楽の分野でも使われていた」と数学の歴史を解説した。特別展は11月8日まで。(田中開 写真)

催事

食と酒 東北祭り

10月17(土)・18日(日)につくばセンター広場(つくば市吾妻)で開催される。青森、岩手、山形、秋田、宮城、福島から1日の酒造が集まり日本酒を販売するほか、東北のご当地グルメを販売する。

また、筑波大学ときめき太鼓塾や応援部WINSなどのステージも用意される予定。

詳細は http://shokutosake.wix.com/tohoku_natsuri

Take@way 就活討論会

就職活動を目前に控えた学生を対象に、10月8日(木)に3A204で行われる。就職活動を終えたばかりの内定者や、ソフトバンクの人事部社員と交え就職活動やインターンシップでの疑問点などを討論する。参加希望の学生は事前に予約が必要。申し込み先 <http://goo.gl/forms/FGEgRqkL6o> 問い合わせ先 <http://takeawaytsukuba.com/>

Biviオープン 筑波大ブース賑う

9月5日にオープンした、つくば駅前的大型商業施設「Bivi」は2階に「筑波大学サテライトオフィス」が設置された。このスペースは、学生や教員の研究成果などの発表や、イベントの開催などに使用することができ

る。つくば市の「つくば総合インフォメーションセンター」と併設されており、イベントの際には2つのスペースを合わせて使うこともできる。

オープン当日は筑波大芸術系の教員らが復元した湯島聖堂本尊の孔子像が公開された。それに伴い、守屋正彦教授(芸術系)が「聞きかじりの儒教美術」と題して講演を行った。この日はサテライトオフィスに500人以上が訪れ、大いに賑わっていた。

また6日には孔子像のスケッチや、粘土を使った彫塑を体験することができるイベント「孔子像でちょっとアート!」が開催された。子どもから大人まで、熱心に制作に打ち込んでいた。来場した男性は「駅の近くで人が集まりやすい場所自由に使える空間があるのは便利。ぜひ利用したい」と語った。(石川泰行 社会学類1年12面に関連写真)

就活の後ろ倒し 学生から不満

今年度から経団連に加盟する大手企業の選考活動の解禁が大学4年の4月から8月に後ろ倒しされた。学生を勉強に専念させたり、留学生を増やすことが狙いだが、学生への取材では「就活期間が長引いた」「研究や部活などに専念できない」など不満が上がっていた。経団連加盟企業と非加盟企業で採用時期にずれが生じ、「就活終われハラスメント」(オワハラ)も社会問題となった。どのように就活すれば良いのか。また、企業の対応はどうか。就職課や今年就活をした学生などに取材した。(林健太郎、森脇慎二社会学類、添田春由II生物学類、深作歩美II生物資源学類)

勉強に専念させる狙い

■後ろ倒しの経緯
就活時期の後ろ倒しは、2013年4月に安倍晋三内閣が平成27年度から就活の時期を遅らせるよう経済界に求め、実施が決定した。就活を控えた学生を勉強に専念させたり、日本と学期制が違ふ外国の大学からの帰国が遅れる留学生に配慮すること、留学する学生を増やすのが狙いだ。

要請を受け、経団連は採用活動の時期を遅らせるよう加盟企業に促した。その結果、説明会などの広報活動解禁は大学3年の12月から大学3年の3月に、面接など選考の解禁は大学4年の4月から8月に、それぞれ繰り下げられた。



学内企業説明会で採用担当の話をする筑波大生(3月2日、大学会館で) = 筑波大学就職課提供

卒論執筆に影響

■問題点

後ろ倒しの大きな影響は、卒業論文や修士論文を執筆したり、学会に参加する時期と、就活の時期が重なることだ。筑波大学就職課の担当者は「特に理系の学生は実験があり、自由にスケジュールを組むのが難しい。そのため、理系の学生ほど後ろ倒しの影響を受けやすいのではないだろうか」と推測する。

経団連が設定した就職活動スケジュール

	2015年 4月入社	2016年 4月入社
大学3年生	12月	12月1日 広報解禁 (企業説明会など)
	1月	
	2月	
大学4年生	3月	3月1日 広報解禁 (企業説明会など)
	4月	4月1日 選考解禁 (面接など)
	5月	
	6月	
	7月	
	8月	8月1日 選考解禁 (面接など)
	9月	
	10月	
	内定式	
	就活期間1年 就活期間8カ月	



個別の企業の説明の様子(3月2日、大学会館で) = 筑波大学就職課提供、一部画像処理をしています

「長期化精神的につらい」

今回の就活時期後ろ倒しされたのが、「学業に影響の影響で、学生から多く聞かされたのが「精神的につらい」

解禁前に事実上の面接も

経団連による就活の後ろ倒しでは開始が遅くなる一方で内定式の時期は変わらない。この変更では選考期間が短くなっている。しかし、選考解禁より前の時期に、社員との座談会などの形で事実上の面接を行う企業も多く、学生はエントリーシート(E-S)を書くのと同時に、面接を受けなければならないケースが出てくる。生物資源科学専攻のある大学院生は「E-Sを複数回受けなければならぬ。心の準備ができていない。冬のインターンの準備がまだ間に合っていない」と話している。また、冬のインターンも活発で、これを就活と見

ると、実質的な開始時期は昨年とほとんど変わっていない。マイナビの調査によれば夏のインターンを実施した企業の74.6%は、冬のインターンを探していた。学生にとっては、冬のインターンを探していた。学生にとっては、冬のインターンを探していた。学生にとっては、冬のインターンを探していた。

受験企業絞り、負担減らす

就活時期の後ろ倒しによる学業などへの影響をどう乗り切れば良いのか。「後ろ倒し」の影響は少なかつた。今年8月、情報サービス

「これが大切だと感じた」という。学群生だっただけでも就活をしたが、その時は十数社を受験し、どこからも内定を受けなかった。受験したものの、どこからも内定を受けなかった。受験したものの、どこからも内定を受けなかった。

「オワハラ」増加 筑波大生も被害

ある文系の女子学生は、大手企業の選考が解禁される前に、既に内定をもらっていた。だが、選考に落ちた。オワハラは、他社に学生を奪われたくない企業が、内定を出す条件として就活をやめるよう学生に強要する行為。増加している理由は中小企業、大手企業の順で採用活動を行うようになったためだ。中小企業の内定を獲得したものの、大手企業が第一志望のため就活を続けたい学生が、オワハラを受けたりと感じることも多い。誓約書を書いた後でも入社を断れる。その場合は断るのもって対応するのが大事だ」と話す。

た。ある理系の大学院生は、後ろ倒しで自らの研究に大きな影響を受けたという。8月終わりから9月の初旬にかけては、修士論文を審査の審査の一つの中間報告がある。このため、審査の準備と就活時期が重なり「正直、両立が大変だった」という。また、この大学院生は「経団連は就活短期化の後ろ倒しにより精神的な負担が大きくなった」とも話した。後ろ倒し以前は就活が始まる12月に就活を終えた。先輩が大学に残っていたため、就活の悩みを先輩に相談できた。だが、今回はそれができず、つらかったという。経団連に加盟しない中小企業やベンチャー企業の一部は早々と説明会を開始し、内定は4月のケースがある。だが、経団連所屬企業は、大手企業の選考を受けようと考えていた。だが、選考に落ちた。オワハラは、他社に学生を奪われたくない企業が、内定を出す条件として就活をやめるよう学生に強要する行為。増加している理由は中小企業、大手企業の順で採用活動を行うようになったためだ。中小企業の内定を獲得したものの、大手企業が第一志望のため就活を続けたい学生が、オワハラを受けたりと感じることも多い。誓約書を書いた後でも入社を断れる。その場合は断るのもって対応するのが大事だ」と話す。



難民殺到で対応に限界

ドイツ

【ミュンヘンで平嶋健人】社会学類4年、写真も内戦が続くシリアからの難民がドイツに殺到している。同国が9月7日、80万人の受け入れを表明したためで、これまでもオーストリアなどから10万人以上が到着していたミュンヘン市に受け入れ表明後の12日には一気に1万人以上が列車で押し寄せた。対応しきれなくなった政府は13日、流入を抑えるために国境での検問を導入。オーストリアからの列車を運休とした。現地に

9月16日、ウィーン発ミュンヘン行きのバスは約60人が乗れるバスはほぼ満席だった。ドイツ国境手前で検問の大渋滞に遭遇した。バスポートを見せろ。警察の指示で空き地に停車したバスに、疲れきった顔の警察官が乗りこんできた。難民とみられる乗客に次々と荷物を全て持って、外に出ろ」と声をかける。つい先ほどまでスマートフォンでゲームに興じたり、車窓から見える夕焼けの写真を撮影してつづいていた青年や家族連れだ。14人の難民は外で犯罪者のように警察官に囲まれ、一列に整列させられた。手続きを経た上で、付近の収容施設に送られる予定だとい



警官ををさんで対立する賛成派(手前)と反対派(奥) (9月19日、ミュンヘン中央駅前)

れ、難民のためのバスの待機所として使われていた。警備の警官に聞くと、鉄道が運休になる前は難民が溢れかえっていたという。話をしていると、20歳代とみられる青年が歩み寄り、旅券がないと訴えた。警官は手短かに会話をすると、テント脇で待つ収容施設行きのバスに青年を連れ去った。「今ではとても簡単に手続きが進む。ただ、難民が多すぎて警官が足りないけど。警官が苦笑した。ドイツの公共放送の世論調査によると国民の88%が難民のために衣類の提供や募金に協力すると答えた。しかし国内では反対派も根強い。

ミュンヘン市が属するバイエルン州のホルスト・ゼーホーファー知事は「難民受け入れは長い間、災いをもたらさざる」と批判。一方で同市のデーター・ライター市長は「人々に野宿はしてほしくない」として、難民をできる限り受け入れる方針を示しているが、限界に達している難民の収容能力に「どう対処したらよいかかわからない」とも漏らす。EUを揺るがす難民の流入という異常事態は、もはや日常の風景になりつつある。

て責任を果たすべきだ。難民の支援団体に所属する同市在住の女性は反対派を強く批判した。地元警察によるこうしたデモは定期的に行われているという。

「子どもを望まない独身の若者が10年間で増えている。2013年の厚生労働省の調査によると、「将来子どもは欲しくない」と答えた独身の若者は男性で15.8%、女性で11.6%に上り、10年前の調査よりも男性は7.2%、女性は4.4%上った。その理由には「子どもを育てるだけの経済的余裕がない」「自分の自由な時間をもたなくなる」などが挙げられているが、筑波大学生はどう考えているのか。中央図書館前や第二エリア食堂などで聞いた。(橋野朝奈 日本語・日本文化学類1年、加藤末修 社会学類1年)

読者の声

安里香菜さん(比文3年)

前号の「記者の声」(7月13日)で林健太郎記者は、沖縄県・普天間基地(宜野湾市)の辺野古沖(名護市)への移設問題について、沖縄の基地負担の軽減の必要性などを論じた。私は同記者の取材に際し、普天間基地そばの北中城村出身者として現地の危険な状況などを説明したが、ここでは沖縄で生まれ育ち本土で学ぶ者として、基地問題に対する沖縄と本土の温度差を再び考え、日本

米国の土地収用令(53年)などを基に「銃剣とブルドーザー」(沖縄県報告書)により軍用地が強制収容されたのだ。私の両親は現在50代だが、彼らが幼い頃の占領下では、道路は右側通行で、通貨はドル。米軍用地、通貨はドル。米軍用地、戦争は避けられない。一方、私は小中高を通じて、戦争は避けられない。一方、私は小中高を通じて、戦争は避けられない。

米軍基地の移設問題 日本全体での議論を

の1助としたい。終戦後の本土と沖縄の状況はあまりにも違う。米軍占領下の沖縄は、焼け野原となった広大な土地が、住宅地、農地、墓地などの別なく米軍基地のフェンスに囲まれた。

機は墜落事故や米兵の犯罪も続いた。本土が目覚まし経済復興していく一方、沖縄は戦後もつらいつらいつらな状況に立たされた。沖縄の人々にとって戦後の記憶はこれらのものに根差している。直接体

にまたがり、解決は困難を極める。この問題を通して私が強調したいのは、平和な暮らしをする権利と基地負担の義務とのバランスをどう捉えるのかが、沖縄、本土を問わず、国民一人ひとりに問われていることだ。沖縄県によると10年の米軍基地の同県面積に占める割合は10.2%。他の都道府県より格段に高く、米軍専用施設に限ると、全国の7割以上が沖縄に集中している。沖縄はあまりにも長い間、過大な義務を果たし続けたと思う。本土には問題の根深さや沖縄の心情を知ってもらい、全国で基地受け入れの議論が広がってほしい。

反射鏡

子どもを望まない 独身の若者の増加

子どもを望まない独身の若者が10年間で増えている。2013年の厚生労働省の調査によると、「将来子どもは欲しくない」と答えた独身の若者は男性で15.8%、女性で11.6%に上り、10年前の調査よりも男性は7.2%、女性は4.4%上った。その理由には「子どもを育てるだけの経済的余裕がない」「自分の自由な時間をもたなくなる」などが挙げられているが、筑波大学生はどう考えているのか。中央図書館前や第二エリア食堂などで聞いた。(橋野朝奈 日本語・日本文化学類1年、加藤末修 社会学類1年)

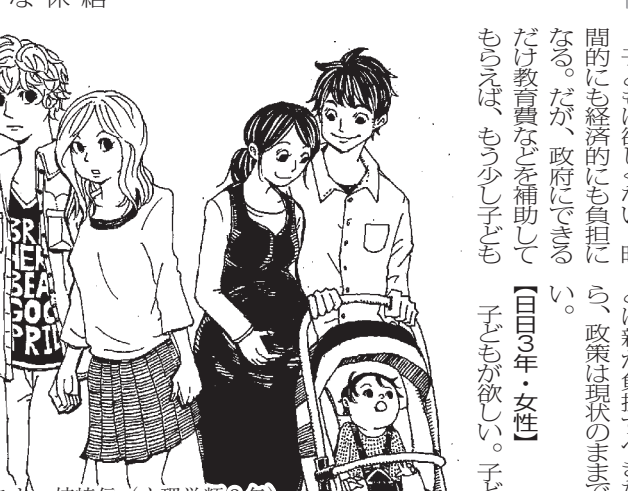


イラスト 姉崎信(心理学類3年)

【比文3年・女性】 子どもが欲しい。元から子どもが好きなので制度があまり整っていないなくても欲しいと思うが、保育園が増えればもっと安心して子育てに臨めると思う。 【比文3年・女性】 子どもは欲しくない。時間的にも経済的にも負担になる。だが、政府にできるだけ教育費などを補助してもらえば、もう少し子どもを持つことに積極的になれると思う。 【人文3年・男性】 子どもが欲しい。育った家庭が自分の理想の家庭に近いので、自分もそのような家庭を築きたい。経済的や時間的に負担がかかるのは仕方ないし、教育費などは親が負担すべきだから、政策は現状のままがいい。 【生物3年・女性】 子どもが欲しい。自分自身が親に育てられ成長したので、そうした家庭のあり方を引き継いでいきたいと思う。政府には、教育費の補助や産休・育休などの制度をより充実させてほしい。 【生物3年・男性】 子どもが欲しい。自分自身が親に育てられ成長したので、そうした家庭のあり方を引き継いでいきたいと思う。政府には、教育費の補助や産休・育休などの制度をより充実させてほしい。 【生物3年・女性】 子どもが欲しい。子どもを持つことに憧れがある。補助金などの制度があればうれしいが、自分自身がお金をかけて親に育ててもらったので、自分もお金をかけて子どもを育てるのは当たり前のことだと思う。

紫峰会の大学移行

大学公認サークルへの助成金支給などを行う筑波大学の学生後援会「紫峰会」が業務の安定化のため来年度から大学の運営下に移行する方向で調整が進んでいる。7月24日に1日棟で行われた学生向け説明会では、玉川信一(副学長、学生担当)や大学職員が移行案について説明。紫峰会の支援を受けているサークルや部活動の代表者ら約160人が参加し、多数の質問や移行への不安の声が上がった。 終了予定時間を大幅に過ぎては質問はやまず、大学は質問を受け付けるホームページの開設を約束して閉会。現在ホームページでは、説明会の概要や移行に関する資料とともに、投稿された質問とその返答を掲載し、移行への理解を促している。大学の説明に学生は何を感じたのか。また、説明会に来なかった学生は、移行案についてどう思っているのか。説明会直後の1日棟や中央図書館前で聞いた。(田中開 社会学類2年、深作歩美 生物学類2年)

【社会学類1年・男性】 説明会に参加した。大学側が紫峰会の移行を決定事項として話を進めていたことには納得できないが、大学の説明には納得できた。学生は現体制に特に不満がなく、「移行は悪」と決めたわけではない。説明会では一方的に反対を主張する問を感ずる。大学の運営下に入ることで、これまでより広い範囲の学生に支援が行き届くのではないかと期待している。 【比文3年・女性】 説明会に参加したが、移行には反対だ。大学は「保護者からの寄付金が減らないように努力する」と言っているが、移行案には前向きな体制が変われば、寄付金が増えるからいい。 【社会学類1年・女性】 子どもが欲しい。元から子どもが好きなので制度があまり整っていないなくても欲しいと思うが、保育園が増えればもっと安心して子育てに臨めると思う。 【比文3年・女性】 子どもは欲しくない。時間的にも経済的にも負担になる。だが、政府にできるだけ教育費などを補助してもらえば、もう少し子どもを持つことに積極的になれると思う。 【人文3年・男性】 子どもが欲しい。育った家庭が自分の理想の家庭に近いので、自分もそのような家庭を築きたい。経済的や時間的に負担がかかるのは仕方ないし、教育費などは親が負担すべきだから、政策は現状のままがいい。 【生物3年・女性】 子どもが欲しい。自分自身が親に育てられ成長したので、そうした家庭のあり方を引き継いでいきたいと思う。政府には、教育費の補助や産休・育休などの制度をより充実させてほしい。 【生物3年・男性】 子どもが欲しい。自分自身が親に育てられ成長したので、そうした家庭のあり方を引き継いでいきたいと思う。政府には、教育費の補助や産休・育休などの制度をより充実させてほしい。 【生物3年・女性】 子どもが欲しい。子どもを持つことに憧れがある。補助金などの制度があればうれしいが、自分自身がお金をかけて親に育ててもらったので、自分もお金をかけて子どもを育てるのは当たり前のことだと思う。

筑波大ビッグバンドプロジェクト 躍動感ある演奏 17曲披露



生き生きとした音色を奏でるバンド(9月26日、つくばカピオで)

創立記念リサイタル

筑波大学の学生や卒業生(ジェクト)の創立記念リサイタルでビッグバンドを組む、イタリアが、9月26日につくばカピオ(つくば市竹園)で開演された。3部構成で、

ジャズの名曲やテイズニー映画の挿入曲など17曲を披露。訪れた観客は迫力ある演奏を楽しんだ。

ビッグバンドはジャズの演奏形態の一つ。演奏者は17人前後で、サクソフーン、トロンボーン、ドラム、ピアノ、ベースなどの楽器で編成する。これまで筑波大には、サークルなどでビッグバンドの練習ができる環境がなかった。同プロジェクト代表の黒崎友さん(メ創4年)は、ビッグバンドをやりたい人が練習できる場所を作ろうと、今年4月にT・A・C Iでバンドを結成。宿舎祭やつくば市のイベントなどで演奏を披露してきた。

第一部の一曲目はL・Pリマ作曲「Sing Sing Sing」。躍動感のある演奏で、観客をジャズ

の世界に引き込んだ。曲中黒崎さんがクラリネットのソロを披露。明るい音色を響かせ、客席から大きな拍手が起こった。

リサイタルの最後を飾ったのは、ステイヴ・ワンダーの「Sir Duke」。ポーカーの小峰楓子さん(医学部2年)と関口晴紀さん(看護2年)の力強い歌声をバンドの生き生きとした演奏で盛り上げた。同プロジェクトは今後、バンド名を「Neoopolis Big Band」と変えてサークルとして活動する。代表の黒崎さんは「これからも技術を磨き、地域で愛されるバンドに成長していきたい」と話した。(廣岡里穂 文学部2年、写真も)

子どもに絵の魅力伝える 学生が描き方を指導



モチーフを見ながら絵を描く子ども(7月18日、5C棟)

子どもたちが大学生と絵を描くのを楽しむイベント「夏休みアート・デイ キャンプ」が7月18-19日に5C棟の大理石こう室で行われ、子どもや保護者の約460人が参加した。8月

25-30日には、茨城県つくば美術館(つくば市吾妻)で子どもたちの作品の展示会が行われた。

このイベントは小中学生に芸術の楽しさを伝えるため、筑波大の芸術系の教員が主催しており、今年で8回目だ。

イベント当日、子どもたちにはミナランジェロのダビ像やニケ像などの石膏像や、果物や鳥の剥製などのモチーフを色鉛筆や水彩の具で思い思いに描いた。芸術を専攻する学生らから「鉛筆の使い方はこうだよ」と遠近はこうやって

指導する上級生に位置を替わりたいと申し出たこともあった。だがこのままの位置でいこうと背中を押された。

心が決まったのは、本番2日前のハーサル。全メンバーの前で踊り、本番のイメージが湧いた。「やるしかない」と吹っ切れた。

演技が終わると、客席に向かって深々とお辞儀。悩みを乗り越えた清々しさを感じさせた。

今回のイベントで初舞台を踏んだ1年生。部長の浅井勇大(工学3年)は「今年はずまくなりたいという強い熱意を持つ1年生が多い。今後が楽しみ」と期待する。出番は長くはなかったが、堂々とした演技で確実に存在感を示した。(添島香苗 生物学部3年)

表現するいいよ」などとアドバイスを受けながら作品を完成させた。

2回目の参加だという小学2年生の女の子は、絵を描きながら「石膏像はモチーフがいろいろ置いてあって格好いい。描いた絵を美術館で飾ってもらえるのもうれしい」と話した。

主催者の一人の太田圭教授(芸術系)は「子どもたちが芸術に興味を持ち、絵に関わる機会が増えてくれれば」と語った。(佐々木悠里 文学部1年、写真も。12面に関連写真)

34組がロック熱演
つくばフォーク村
軽音楽サークル、つくばフォーク村のライブが8月28-29日に1B棟で行われた。計34組のバンドが、国内外のロックを中心に熱演。また照明や音響などをメンバーだけで行い、演出にもこだわった。

フォーク村副会長の松浦悠日さん(応理3年)は「設備も自分たちですること、一からライブを作り上げる達成感があった」と語った。(中垣音彩 心理学部1年)

を振り上げて熱狂した。4番目に登場した「おいしいな蜜柑」は、1曲目に椎名林檎の「歌舞伎町の女王」を演奏した。更に、同曲をゆったりとした曲調にアレンジした「泥酔パーション」を3曲目にも披露した。

1年生堂々の初舞台

上で踊ることから生まれたダンスの総称で、体の使い方や曲の雰囲気などが異なるさまざまなジャンルがある。

ダンスを始めて数カ月とは見えない演技を見せたのは山川鈴加(社工1年)。ストリートダンスのジャンルの一つ、ヒップホップを6人の仲間と踊った。ヒップホップの発祥は1970年代アメリカ。ディスコが流行する中、貧困でディスコに行けないアフリカ系アメリカ人の若者が、公園に集まって踊ったことから生まれたという。

山川はラップ調の音楽に乗せ、ヒップホップに特徴的な「アップ」と「ダウン」の動きでリズムをとった。アップは、少し膝を曲げた姿勢からビートに合わせて背中を丸め、膝を軽く折り曲げる。ダウンはその逆で、

ほぼ直立の姿勢からビートに合わせて背中を丸め、膝を軽く折り曲げる。山川は、腰や、首など

全身を使いアップとダウンを繰り返した。それに合わせ、腕を振りたり腰を落したりダイナミックにステップを舞った。

ダンスを始めたのは大学から。周りは高校以前から続けている人ばかりで「どうしても比べてしまっていた。自分が一番下手だった」と振り返る。

その分、練習には1.5倍熱心に取り組んだ。Jamの活動日以外にもほぼ毎日自主練習し、多い時期は一日6時間をダンスに費やした。

山川は演技終了後「もっと練習して人を感動させられるダンスがしたい」と語った。更なる飛躍への熱意は十分だ。

キレのある動きが、舞台の中央で際立っていたのは窪田なぎさ(国総1年)。ストリートダンス



アップテンポな曲に合わせて全員で踊る1年生(8月8日、Club GOLDで) ■中垣音彩撮影

アップテンポな曲に合わせて全員で踊る1年生(8月8日、Club GOLDで) ■中垣音彩撮影



変化に惑う若手を支えたい

私には電気工学科の出身である。エンジニアとして新日本製鐵(現新日鐵住金)に入社した。入社した動機は先輩社員からの会社は人を大切にする会社だ」という一言であった。入社後の担当業務は自社の製鉄設備エンジニアリング。入社3、4年目ごろからエンジニアとしての適性に疑問を感じ、入社6年目に社内公募に応募した。人に直接関わる仕事がしたいという前向きな気持ちで、エンジニアとして仕事を

継続していく自信が持てず逃げたいという気持ちが半々だった。

教育関連の子会社で5年半経験し新日鐵に復職、新規事業部門(現新日鐵住金ソリューションズ)の人材育成担当となった。当時、この組織は極めて大きな事業構造改革を迫られ、それに伴い否応なく仕事の転換を迫られる社員の職種転換教育を1年半担当した。激しい変化に翻弄され、迷い模索し悩む多くの若手社員と真正面から接することになった。

私が人の支援をしていきたいと思った「原点」ある人材育成現場に応用し、試行錯誤の中で新たな知見を獲得、更に理論的理解を深め現場に応用するというサイクルを継続。「組織の論理」と「個人の尊重」という矛盾の中で、どうすればそれらを調和させられるか探求していった。

最後に、私の著書で紹介している「職業キャリア発達と心理・社会的発達との関係を表す積分モデル」は、電気工学の「速度制御モデル」をイメージして発想したものである。自らの適性に疑問を感じ、エンジニアの世界から離れていった私が、電気工学の世界からヒントを得たというの不思議なものだと感じる。



岡田昌毅 教授(キャリア心理学) 人間系・教授。1983年新日本製鐵株式会社入社後、2000年筑波大学教育研究科、07年名古屋大学大学院教育発達科学研究科修了。06年11月から現職。

文科省要請

国立大学

文科省の通知の背景や、今後の国立大学の動き方について、高等教育論が専門の金子元久特命教授に聞いた。

(聞き手・井口彰)

人文社会科学系が廃止・縮小される原因は、通知の根拠には、国立大学の財政悪化がある。

2004年の国立大学法人化で、定期的に大学に配分される予算「一般運営費交付金」が削減され、各大学は文科省が認めた研究に与えられる補助金「競争的資金」で研究資金をまかなう必要が出てきた。そのため、科学技術の振興に大きく寄与する理系の研究の方が文

「学生教育のための改革を」

科省に認められる傾向があり、それに重点が置かれるようになった。今回の通知を受け、人文社会科学系のあり方が問われています。今回の通知に対して人文社会科学系の文化的な重要性を無視していると反発する人もいるがそれは違う。人文社会科学系の研究は他の学問と異なり、研究者自身の問題意識が「社会的な要求」を作り出していると思う。人文社会科学系の研究に文化的・社会的な重要性があるか誰にも分からなと思うし、単に文化的・社会的な重要性という観点から人文社会科学系を擁護するのはいかなるものか。問題にすべきは、学生の教育に對する教員の姿勢だと感じる。人文社会科学系は学生の教育にとつては非常に重要な。理系の人も人文社会科学系の知識を得ることで広い視野を持てる。ある調査によると、人文社会科学系の教員はほとんどが、学生の少ない学科の教員数を減らし人件費を抑えられる上、文理融合の組織を新設することも可能だ。筑波大学は、「系」と呼ばれる教員組織と学群・学類に代表される学生組織が独立しており、この改革をすでに終えている。だが、実際は自分の学類以外の授業が取りにくいなどその良さを生かしていない。カリキュラムを変更し、学群や文理融合型の学部が半数以上で、地域の活性化を目指すなど、地域への貢献を目的とする学部も多い。更に世界が抱える問題を解決す

文理融合型学部を新設

来年度新設される学部

文理融合型
宇都宮大学 地域デザイン科学部
千葉大学 国際教養学部
福井大学 国際地域学部
愛媛大学 社会共創学部
宮崎大学 地域資源創成学部
理系
徳島大学 生物資源産業学部
大分大学 福祉健康科学部
芸術系
佐賀大学 芸術地域デザイン学部

国立大8大学で8学部新設
来年度は、国立大が法人化した2004年以降最も多い8大学8学部が新設。文理融合型の学部が半数以上で、地域の活性化を目指すなど、地域への貢献を目的とする学部も多い。更に世界が抱える問題を解決す

手段を模索するなどの国際的な視野を持つことが目的の学部もある。例えば、千葉大学(千葉市稲毛区)の「国際教養学部」は、世界規模の問題の

解決に向け文理融合の教育を行うことが目標だ。本紙の取材に対し、千葉大の担当者(「国際教養学部の新設は、国際色豊かな大学づくりを目指し元々提案されていたもので、今回の文科省の通知を受けたものでない」と回答した)。

筑波大学 自然図鑑

ツマグロヒョウモン



撮影地：第二エリア

以前このコーナーで紹介したジャコウアゲハは、体に毒を含むことで身を守っていた。ジャコウアゲハのような毒チョウは、数多くいるが、ツマグロヒョウモンは毒チョウを利用して敵の目を欺いているといわれる。ツマグロヒョウモンのメスは毒を持つカバマダラと羽の模様が似ている。カバマダラに毒があると知っている鳥は、ツマグロヒョウモンも毒チョウだとは見てとれない。朝でも、奇麗なチョウが日なたほっこしているのを見たら、気持ちに少し余裕がでると思う。(写真・文：今田創、比文：3年、野生動物研究会)



HELLO! 先端科学

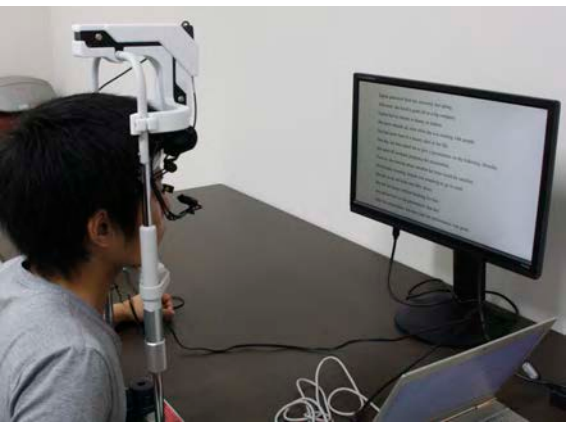
出てくる単語や文法は知っているものばかりなのに、英語の長文を読むと内容を誤読してしまうことを、誰もが一度は経験したであろう。読み間違いを防ぐために生徒にどう指導すればいいのか研究を行っているのが卯城祐司教授(人文学部)だ。

英語長文の読み間違い 目の動きから原因探る

その結果、長文の中で矛盾する内容が離れて書かれていた場合、多くの人が矛盾に気づきにくくなる。例として、「メアリーはベンジャミンだ」という文の近くに「メアリーはチースパーガールを注した」という

矛盾する内容が書かれておくと、多くの人が「ベンジャミンだ」と書かれていた部分に視線を戻し、長く見つめていたが、離れていくとそのまま読み流す傾向にあった。そこで現在は、「テキストの内容を想像しながら読むように」という指

示を出すことで、矛盾する内容の文が離れていても矛盾に気づけるのではなかという仮説を立て、検証を行っている。「読み間違いは、英文を訳すことには意識が向かず、文と文のつながりを気にせずに読み進むか



「眼球運動測定装置」を使って英文を読ませる実験の様子(9月9日、人文社会学系棟)

手紙

月刊アフタヌーンでデビューしたのは、芸術専門学群在学中の1994年の事でした。高校生の時からすでにマンガ家を目指していた私は、入試の面接で「将来は画家になりたいです」とワン

と意思を述べた。マンガ家ゆえにふざけた文章になっていきますが、ご容赦ください。

まずは学生宿舎。平砂でした。あの五角形の小屋。友達と部屋を共有してました。朝食・夕食は基本、共用棟。風

ぎると不思議とそういうのは消えるのです。2年生以降住んだアパートでは、また友達と互いに行き来してメシ、酒、ゴミ捨て場で自転車を洗い、分解・洗浄・再塗装・組立をしたのも楽しかったです。友達に貸したら



木尾士目さん 大に存在します。入ったことあります。ただ、半分以上は半年くらいしかいませんでした。

です。当然すべてフイクションです。別にサークルと問題があったわけではなく、私が団体行動が苦手な足が遠のいただけのことです。なので名前を使うのは少々申し訳ないと思えます。サークルに青春を懸けても

今を支える大学生生活

しかし編集長に「君は大学生活がよっぽど楽しかったんだなあ」と平は呆れられるほど、大学生を主人公にしたマンガを多く描くことになりました。何か楽しかったかなあ?と思いつけられずに、書かせていただく

なもので、メンタリティーは学生のまま、40歳を越えてしまいました。全然大人になれないまま、徐々に肉体の衰えを感じ始めている今日この頃です。それでもここまでマンガで生きてきたベースは間違いなく大学時代にあります。皆さんも自分のやり方で楽しんでください。(平成8年度芸術専門学群卒)

柔道世界選手権

永瀬 2度目の挑戦で「金」

日本人初の81キロ級制覇

柔道の世界選手権が8月24-30日にカザフスタン・アスタナで行われ、男子81キロ級で永瀬貴規(体専4年)が金メダルを獲得した。同階級の日本人の優勝は初。決勝では一昨年の王者ロイック・ピエトリ(フランス)と対戦し、抑え込みで一本を奪った。団体戦にも出場した永瀬は、韓国との決勝でイ・センスに勝利し、日本の2連覇に貢献した。(森脇慎)



写真:アフロスポーツ

一昨年の王者ピエトリに対し、攻撃の機会をうかがう永瀬(左)(8月27日、世界選手権の決勝で)

柔道

昨年準々決勝でアタナシオス・チリキシビリ(ギリシア)に、3位決定戦でピエトリに敗北し、メダルを逃していた永瀬。今大会には雪辱を期して臨んだ。2回戦から登場した永瀬は順調に勝ち進み、準決勝でチリキシビリと対戦。先に組みに行き自分のペースに持ち込んだ。チリキシビリが大外刈りを失敗した隙を見逃さず脱落として有効を奪い、優勢勝ちで決勝に進出した。ピエトリに挑んだ決勝。永瀬は試合序盤から積極的に出た。技を仕掛けた。1分30秒過ぎ、小内刈りでピエトリの体勢を崩すと相手の体を回し、守りの姿勢に入ろうとするピエトリの腕をつかんだ。抵抗するピエトリを崩れ上四方固めで抑えて一本勝ち。自身初の世界一に輝いた。団体戦の決勝では中堅戦でイ・センスと対戦した。個人戦の準々決勝に勝利した相手に苦戦したものの、指導2で勝利。勝負強さを発揮した。永瀬は「昨年の悔しさを晴らせた。リオデジャネイロ五輪で勝つことが最大の目標なので、しっかりと気を引き締めてやっていきたい」と語った。

永瀬貴規(ながせ たかのり) 男子81キロ級。長崎日本大学高校出身。筑波大柔道部主将。2013、14年にグランドスラム東京を連覇。14年世界選手権では個人戦5位、団体戦優勝(中堅)。15年全日本選抜体壇別選手権、マスターズ大会優勝。得意技は内また。181センチ。21歳。長崎県出身。

男子15季ぶりの優勝 最終戦 濱谷が決勝弾

秋季リーグ



得点を狙う筑波大選手(9月22日、日体大戦で) = 男子ハンドボール部提供

ハンド

【国土領大学多摩キャンパス(東京都多摩市)で油布知夏(人文学類3年)関東学生ハンドボール連盟秋季リーグが8月29日から9月22日にかけて行われ、男子が7勝2分で15季ぶりの19回目の優勝を果たした。9月22日の最終戦で、筑波大は日本体育大と対戦。勝った方が優勝という事実上の優勝決定戦で、試合終了1分前に逆転し、29-28で劇的な勝利を収めた。前半は序盤から激しい打ち合いが繰り返された。開始1分で日本体育大に先制されたが、その数秒後に筑波大もゴールを返す。その後4点差まで広がられる場面もあったが、26分、筑波大が12と同点に追いついた。だが終了間際に日本体育大に立て続けにゴールを決められ、2点差で前半が終了した。後半再び4点差まで離され終盤へ。だが、筑波大は焦らず着実に得点を重ねた。18分の藤本良佑(体専4年)を皮切りに、立て続けにゴールを奪い、1点差に迫った。ここで日本体育大がタイムアウト。すると大がタイムアウト。すると流れが再び日本体育大に傾き、連続で失点した。だがここから筑波大が粘りを見せた。25分、26分に連続ゴールを決め再び1点差に。その直後日本体育大に7分スローを献上したが、GKの坂井幹(同2年)が阻止。そのごぼれ球を筑波大が拾って速攻を仕掛け、堀広輝(同2年)が同点弾を決めた。タイムアウトを取り、改めて陣を組み筑波大。そしてタイムアウト明けの29分、中央からパスを受けた濱谷圭介(同4年)がサイドからシュートを放ち逆転ゴールを決めた。土壇場でこの日初めて日本体育大を逆転し、そのまま試合が終了した。決勝弾を放った濱谷は、「タイムアウト中にどうゴールを狙うか話し合っていたが、実際にシュートしたときは無我夢中だった。

越智が準優勝 執念の逆転

漕艇

【戸田漕艇場(埼玉県戸田市)で田中開II教育学科類2年)男子シングルスカルの越智寛太(体専4年)が全国の舞台で結果を残した。8月20-23日の全日本大学選手権で3位に入賞すると、9月10-13日に開かれた全日本選手権では準優勝を飾った。昨年ダブルスカル優勝を果たした越智は、今年もシングルスカルでの出場。2000メートル決勝は、スタート直後から古田直輝(明治大1年)、斧澤友寛(東京経済大4年)が抜け出す展開。越智は2番手を追走したまま1500メートル地点を通過。残り約300メートルからスタートを仕掛けたが、上位2人には届かなかった。越智は敗因に、スタートで首位に立ち逃げ切るといふ計画が崩れたこと、その後の切り替えて1000メートル地点まで加速できなかったことを挙げた。「良くも悪くも終始自分のペースを崩せず、予想外の試合展開に合わせられなかった」と語った。

全日本選手権 越智は敗因に、スタートで首位に立ち逃げ切るといふ計画が崩れたこと、その後の切り替えて1000メートル地点まで加速できなかったことを挙げた。「良くも悪くも終始自分のペースを崩せず、予想外の試合展開に合わせられなかった」と語った。

全日本選手権と同じ2000メートルシングルスカルで決勝に進出した越智はスタートで出遅れたが、2500メートル地点で2番手の斧澤友寛(東京経済大4年)に並んだ。その後徐々に離され、1500メートル地点までは岸澤を艇身から2艇身の差で追いつけた。だが残り500メートルからロングスパートをかけた残り約200メートルで岸澤を捉え、そこからヘッドヒート。追いついた勢いを落さず残り約100メートルで半艇身抜け出し、2位争いを制した。

飛(比文2年) 2位 佐々木大地(工学4年) 優勝

全日本選手権 越智は敗因に、スタートで首位に立ち逃げ切るといふ計画が崩れたこと、その後の切り替えて1000メートル地点まで加速できなかったことを挙げた。「良くも悪くも終始自分のペースを崩せず、予想外の試合展開に合わせられなかった」と語った。

全日本選手権と同じ2000メートルシングルスカルで決勝に進出した越智はスタートで出遅れたが、2500メートル地点で2番手の斧澤友寛(東京経済大4年)に並んだ。その後徐々に離され、1500メートル地点までは岸澤を艇身から2艇身の差で追いつけた。だが残り500メートルからロングスパートをかけた残り約200メートルで岸澤を捉え、そこからヘッドヒート。追いついた勢いを落さず残り約100メートルで半艇身抜け出し、2位争いを制した。

飛(比文2年) 2位 佐々木大地(工学4年) 優勝



人と人とのつながりを表現したダンス部(8月8日、全日本高校・大学ダンスフェスティバルで) = 同部提供

文科大臣賞受賞

全日本高校・大学 ダンスフェスティバル

ダンス

全日本高校・大学ダンスフェスティバルが、8月5-8日に神戸文化ホール(神戸市中央区)で行われ、筑波大ダンス部の作品「裸密」が「A Sense of De・Teach」部門「より」が文部科学大臣賞を受賞した。同賞は、最も完成度の高い作品に贈られる。ダンス部にとりて2年ぶりの11回目の受賞となる。受賞した作品は、写真家の山口理一氏の作品「A Sense of De・Teach」がテーマ。同作品は、現代の希薄な人間関係から生まれる疎外感、それに伴う心理的不安を描いたものだ。演技の前半は人を物のように扱う動きを見せ、後半では人が集まりながら大きく激しい動きをすることで人と人の触れ合いの中に温もりが生まれていく様子を表現した。SNSなどにより「コミュニケーション」が表面的になっている現代社会における、人と人との真のつながりの重要性を訴えた。主将の江上芳純(体専3年)は、「リハーサル、予選決選、エキシビジョンと重ねるにつれ、一人ひとりの演技に磨きがかかると共に、部員の団結力が増していくのを感じた。今後も見た人がテーマの題材を考え直すきっかけを与えような作品を作っていきたい」と語った。(橋野朝奈)

記録ファイル

◆バドミントン 東日本選手権(8月28日-9月5日)、山形市総合スポーツセンター、山形県体育館 【女子】▽団体II優勝▽ダブルス 加藤美幸(体専2年)・柏原みき(同2年) II 優勝 ◆体操 全日本学生ラト競技選手権(8月29日-30日、琉球大学) 【男子】▽個人総合 佐々木大地(工学4年) II 優勝 【女子】▽個人総合 佐々木大地(工学4年) II 優勝

木大地II4位、森本修多II5位

9月22日の準決勝、森崎は序盤から相手フォア側に球を集める積極的な攻めを見せた。サーブも好調で、3-2まで試合を有利に展開。だがその後は苦手に

森崎は「準決勝は自分のミスで失点することが多く、納得できる試合ではなかったと悔しさをにじませたが、一方で「ベスト4」という結果には手応えを感じている。結果を自信にし、今後の試合では更に上の成績を目指したい」と意気込んだ。

第2セットでも森崎はバックの球を回り込んでフォアで返して強打するなど、球威では相手を上回った。だがミスを引きずり、ゲームを支配できず第2セットも落とした。

関東学生選手権

【秩父ミュージックパーク(埼玉県秩父市)で田中開II教育学類2年)6月20日から行われている関東学生選手権(実業団)で、森崎可南子(体専1年)がベスト4に入った。第3シードの細沼千沙(早稲田大2年)、第5シードの坂元君佳(慶應義塾大4年)ら強豪を下したが、準決勝では第1シードの林恵里奈(早稲田大3年)に4-6、2-6で敗れた。

第2セットでも森崎はバックの球を回り込んでフォアで返して強打するなど、球威では相手を上回った。だがミスを引きずり、ゲームを支配できず第2セットも落とした。

テニス

森崎は「準決勝は自分のミスで失点することが多く、納得できる試合ではなかったと悔しさをにじませたが、一方で「ベスト4」という結果には手応えを感じている。結果を自信にし、今後の試合では更に上の成績を目指したい」と意気込んだ。

第2セットでも森崎はバックの球を回り込んでフォアで返して強打するなど、球威では相手を上回った。だがミスを引きずり、ゲームを支配できず第2セットも落とした。

森崎ベスト4

異臭、舞う小バエ

宿舍3地区 不法投棄現場ルポ

カビの生えたマットレス。冷蔵庫や洗濯機。壊れたプリンター……。平砂宿舍の不法投棄現場は、粗大ごみであふれ異臭がしていた。取材をしていると、現場に突然マットレスを乗せた台車を押してくる中年男性の姿が。話を聞こうとする、男性はマットレスを無造作に捨て、無言で立ち去った。9月下旬の一の矢、平砂、追越3宿舍の不法投棄現場を回った。(山野辺拓実 社会学類2年、写真も。田中開 教育学類2年)

学生生活課によると、平砂・追越宿舍では7月末、今年2回目の不法投棄回収を行ったが、現場にはすでに大量の家具や家電が乱雑に積まれていた。カビが生え、ほこりまみれになったベッドのマットレス。宿舍の備品とは明らかに異なるもの。だ。宿舍を出る学生が投棄したのだろうか、冷蔵庫も目立つ。臭いにひかれたのか、小バエがたかっていた。袋にくるまされた衣服や布団、折れたビニール傘も無数に捨てられている。

一の矢宿舍。共用棟近くの不法投棄現場では、約2層の高さまで積まれたごみが、約6層四方の

問う 宿舍を

「ここ(不法投棄現場)に捨てれば、回収してくれるという誤った考えが広がっている」と話す。粗大ごみは本来、市の「粗大ごみ受付センター」に連絡して回収の予約をし、ごみの一番長い部分の長さに応じた処理券(50円から120円未満400円)を貼り、回収してもらうか、直接「クリーンセンター」に

くのカネが費やされるのは「良くない」と話した。学生生活課によると、一の矢学生宿舍の不法投棄物の回収は今年、4月に1回行われた。同課は

「ここ(不法投棄現場)に捨てれば、回収してくれるという誤った考えが広がっている」と話す。粗大ごみは本来、市の「粗大ごみ受付センター」に連絡して回収の予約をし、ごみの一番長い部分の長さに応じた処理券(50円から120円未満400円)を貼り、回収してもらうか、直接「クリーンセンター」に

持参する。電化製品は自分で回収業者などに持ち込む。学生宿舎管理事務所は、新入生のオリエンテーションで、正しくごみを捨てるよう指導したり、不法投棄禁止の看板を立てるなどするが、不法投棄物は中々減らない。

宿舍を取り巻く不法投棄の現状は、問題の根深さを示していた。



平砂宿舍のごみ回収直後の様子(上)(7月29日撮影)と2か月後の様子(下)(9月28日撮影)

世界の教室から

カトリカ大学 (ペルー) いちおたいぞう 一尾泰造

「なぜペルーに留学するの? 私はずっと、ペルーや日本の友人にこう聞かれます。南米に留学してみたい気持ちはありましたが、正直なところ留学先は何となく決めました。本来留学は明確な目的や理由を持ち慎重に留学先の国や大学を選ぶものでしょうが、私は日本の地球の裏側にある南米大陸に、深く物事を



「ケセラセラ」の精神を実感

分の選択を後悔することなくいろいろなことを楽しんで吸収できています。しかし、最初の数カ月間はスペイン語も話せず、公共交通手段であるバスにはバス停がなく好きな場所まで降りるバスはなかったり、郵便物は場所によって異なるシステムだったり、郵便物は運が良くないと届かない

公共の交通手段であるバスにはバス停がなく好きな場所まで降りるバスはなかったり、郵便物は場所によって異なるシステムだったり、郵便物は運が良くないと届かない

カトリカ大学の授業の多くで、英語の論文を課題文献としていることに驚きました。ペルーの公用語はスペイン語なので多くの生徒は英語の文献に苦戦していますが、これはグローバル人材を育

発展途上国での留学だったため、大学の授業や日常生活でさまざまな困難にぶつかりました。大学の授業は40分遅れて始まり苦労しましたが、自

など毎日驚きの連続でした。でも、不自由なことが多い分ペルーの人々は心が豊かです。家族や友人とのつながりを重んじ、悲しい時は目いっぱい泣き、うれしい時は大声で笑います。感情をあらわにしないと言われる日本人の私には新鮮で学ぶことが多いです。

在学しているカトリカ大学はペルーで最も有名な私立大学で、学生はとても優秀で勤勉です。私自身も彼らに刺激され、専攻の政治学に意欲的に取り組んでいます。

成したり、翻訳書の出版を待たずに最新の研究を取り入れるためのようです。グローバル人材の不足が心配される日本も見習うことがあります。

私はペルーの文化や言語、人々と触れることで自分や日本の文化を見つめ直せました。留学は語学に堪能で意識の高い人が行くというイメージがあるかもしれませんが、まずは行ってみることに意味があると思います。

有名な曲にある「ケセラセラ」という言葉は、スペイン語で「なるようになる、先のことばかりではない」という意味です。時間や社会に制限されることなく、ケセラセラな行動ができる学生のうちにペルーに留学し、自分の価値観や考えを大きく変えられて良かったと思います。(社会学類3年)

5年ぶりの完走に歓喜 タイムトライアル部門準優勝



準優勝杯を掲げてほほ笑む家根本さん(7月26日、滋賀県彦根市) = 徳永翼撮影

鳥人間コンテスト

【松原水泳場(滋賀県彦根市)で佐々木修里(人文学類1年、徳永翼(日本語学類1年、岡田優(日本文化学類1年、岡田優(太田社会学類1年、山野辺拓実(同2年。12面に開運写真)自作のプロペラ機やグライダーで琵琶湖上空を飛び、その距離や飛行時間などを競う「鳥人間コンテスト」が7月25-26日に行われ、筑波大からは「つくば鳥人間の会」が「入賞」を達成した。大会は2分44秒78でゴールを目指した。

「つくば鳥人間の会」が「入賞」を達成した。大会は2分44秒78でゴールを目指した。

予備の尾翼を装着することになった。「出場できるかどうか不安だった」と同会長の西永尚矢さん(工学部3年)は当時の心境を語る。

直前、風が秒速2〜3メートルに落ち、絶好のチャンスを恵まれた。パイロットの家根本知輝さん(人文3年)の掛け声と共に発射台から飛び立った飛行機はすくなく安定し、真っすぐ折り返し地点に向かった。家根本さんは風向きを考慮し左回りの旋回を選択。大回りしてしまい、やや予定の

「この(不法投棄現場)に捨てれば、回収してくれるという誤った考えが広がっている」と話す。粗大ごみは本来、市の「粗大ごみ受付センター」に連絡して回収の予約をし、ごみの一番長い部分の長さに応じた処理券(50円から120円未満400円)を貼り、回収してもらうか、直接「クリーンセンター」に

持参する。電化製品は自分で回収業者などに持ち込む。学生宿舎管理事務所は、新入生のオリエンテーションで、正しくごみを捨てるよう指導したり、不法投棄禁止の看板を立てるなどするが、不法投棄物は中々減らない。

宿舍を取り巻く不法投棄の現状は、問題の根深さを示していた。

TFF Tsukuba Future Funding

ホーム ニュース TFFについて お問い合わせ

募集中のプロジェクト

病院で闘病中の子どもたちの夢の花火を打ち上げる学生サークル「つくばけやきっず」を応援してください!

募集期間: 2015年9月24日~2015年10月31日

筑波フューチャーファンディングのホームページ

学生の事業資金を調達 筑波みらいの会と連携

筑波大学は、起業家教育を推進するため、筑波大出身者で作る経営者の会「筑波みらいの会」と連携して、学生らが企画する事業などへの資金調達を行うサービス「筑波フューチャーファンディング(TFF)」(佐々木敦也代表理事)と88年度社会学類卒業生の運用を9月24日から本格的に開始した。同様のサービスはアメリカや日本で普及しているが、大学が中心となって取り組むのは日本で初めてだ。

TFFでは、学生など事業の企画・立案者が企画案を提示した後、審査などを経て、2、3週間をめどに審査に通った案をTFFのサイトに掲載する。筑波大学の卒業生を中心としたサイ

下の閲覧者が、その企画を支援するために資金を提供し、企画者は商品やサービスなどで支援者に還元する仕組みだ。他の企業も同様のサービスを運用しているが、TFFは「筑波みらいの会」の会員などが企画案へのアドバイスを積極的に出し、企画案に磨きをかけることが大きな特徴だという。

TFFは本格運用後、まず筑波大附属病院の小児病棟の子供たちのためのイベントを企画・実行する学生サークル「つくばけやきっず」が行う「ゆめ花火」という企画の資金調達を支援していく。更に、これを皮切りにして、毎年5件前後の企画案を支援したい意向だ。

TFFの佐々木代表理事は、「TFFは筑波大の学生が卒業生とのつながりを感じられる場でもある。在学生をはじめ、筑波大への留学生や筑波大にゆかりのある人たちに企画を出してもらい、「起業するならつくばで」という気風を生み出したい」と意気込みを語った。

筑波大では昨年度から筑波みらいの会と協力し、学生が起業プランを考える「筑波クリエイティブ・キャンパス(TCC)」を実施することで作られたプランや学生主催の企画を実現させるため、インターネットから資金調達を行うTFFを試験的に運用し、4件の企画の費用をまかした。

(新田明夏)

現地でボランティア続ける 「いてもたってもいられず」



市職員とともに受付業務をこなす平井さん(左)(9月21日、水海道あすなろの里で)

【常総市で新田勇夏(社会学類3年、写真も)帰省の道中で街を通り、親しみを感じていた常総市。そんな同市が未曾有の大水害に襲われた…。9月10日常総市で発生した水害で、これまで6日間支援活動を行っている筑波大学生がいる。平井恵理さん(社工専攻1年)だ。平井さんの支援活動に密着した。

避難所として約100人(21日時点)の避難者が使用している同市の研修施設「水海道あすなろの里」(常総市大塚戸町)。平井さん(左)が受付業務をこなしている。埼玉県さいたま市出身。帰省の際の通り道として見てきた常総市の美しい街並みが、過酷な状況に陥っているのを知り、「いてもたってもいられなかった」と話す。鬼怒川決壊から5日後の15日に現地入り。水は幾分ひいてきたが、家々は浸水で建物の壁が泥で汚れ、街に土ぼこりが舞っていた。初日は常総市役所で事務作業を手伝ったが、現場は情報を求める市民であふれていた。市役所1階も浸水

被害に遭っていたが、市民への対応に追われ、市役所はそれを修復する余裕もなかった。初日の午後以降はあすなろの里で、救援物資の配布などを行った。最初はそのように避難者に接するべきかわからなかったが、目を重ねるうちに顔見知りの避難者も増え、「何人かと世間話をするようになった。徐々に避難者の表情が明るくなったのがうれしかった」と話す。10月からは大学院での授業が始まるが「これからも時間を見つけて支援活動を続けたい」と話す。また「災害当初に比べ、被災者も落ち着きを取り戻しつつあるが、支援を必要として

いる人はまだまだいる」と語り、今後の課題は。「現在、電気や水道がほぼ復旧し、道路の通行止めもほぼ解除されつつある。だが大量に出たごみと感染症などの二次被害、浸水被害などにあった被災者の住宅問題がある。特に被災者の住宅については、避難所を中心に聞き取り調査を行い、市営住宅への受け入れを整えるつもりだ」。

「個人的なスペースがなく、プライバシーが守れないため、今後は簡易壁などの設置を進めプライバシーに配慮したい。現在、24時間体制で職員が避難者に対応している」。

「個人的なスペースがなく、プライバシーが守れないため、今後は簡易壁などの設置を進めプライバシーに配慮したい。現在、24時間体制で職員が避難者に対応している」。

「個人的なスペースがなく、プライバシーが守れないため、今後は簡易壁などの設置を進めプライバシーに配慮したい。現在、24時間体制で職員が避難者に対応している」。

「個人的なスペースがなく、プライバシーが守れないため、今後は簡易壁などの設置を進めプライバシーに配慮したい。現在、24時間体制で職員が避難者に対応している」。

いわき市で学生らが人形劇 被災地の子どもに遊び場を

【福島県いわき市で漆島香苗(生物学類3年、写真も)村上市明助教(芸術)ら教員3人と学生6人のチームが、7月24日にいわき芸術文化交流館アリオス(福島県いわき市)で東日本大震災で被災した子どもたちを対象としたワークショップ「ほびめとお

おきなおともたちワークショップ」を行った。5歳から13歳の子ども13人と保護者らが参加し、人形劇や人形作りを楽しんだ。

筑波大芸術系の教員らが中心となり、平成24年度から行っている「筑波大学創造的復興プロジェクト」の一環。芸術系の教員と、芸術専門学群開設の授業「創造的復興」を履修する学生がチームを組み、東日本大震災の被災地や被災者を支援している。

今回は、被災地の子どもたちに遊びとコミュニケーションの場を提供するたため、人形劇と人形づくりを楽しくするプログラムを用意

した。集まった子どもたちは、まず学生らによる人形劇を鑑賞。劇には、地域のことを知ってほしいという思いからいわき市の伝承を取り入れた。いわき市で生まれたとされる美女「久保姫」が、伝説の巨人「だいらぼう」に会いに行くという内容で、子どもたちに「一緒に友達を作ろう」と呼びかけた。

次に、子どもたちは久保姫の友達になる人形を作った。チームは心理療法師の手作りだ。人形劇は、いわき市に行き現地の人に話を聞き、物語を創作した。また、チームは心理療法

師を招いて勉強会を開き、心理学的なアプローチも学んだ。例えば、人形の材料として用意したのは、手袋や鍋つかみ、スポンジなどの日用品。村上市助教は「身近なものをこれらは人形の口」などと考えさせることで、心理的に想像力をかき立てられる」と話す。

参加した女の子は「ほびちゃん」という名前の人形を作った。写真を撮ったのが楽しかったと話した。

「個人的なスペースがなく、プライバシーが守れないため、今後は簡易壁などの設置を進めプライバシーに配慮したい。現在、24時間体制で職員が避難者に対応している」。

「個人的なスペースがなく、プライバシーが守れないため、今後は簡易壁などの設置を進めプライバシーに配慮したい。現在、24時間体制で職員が避難者に対応している」。

「個人的なスペースがなく、プライバシーが守れないため、今後は簡易壁などの設置を進めプライバシーに配慮したい。現在、24時間体制で職員が避難者に対応している」。

妖怪お嬢様



鍋つかみや手袋にビーズなどを付け、人形を作る子どもたち(7月24日、福島県いわき市で)

「個人的なスペースがなく、プライバシーが守れないため、今後は簡易壁などの設置を進めプライバシーに配慮したい。現在、24時間体制で職員が避難者に対応している」。

「個人的なスペースがなく、プライバシーが守れないため、今後は簡易壁などの設置を進めプライバシーに配慮したい。現在、24時間体制で職員が避難者に対応している」。

「個人的なスペースがなく、プライバシーが守れないため、今後は簡易壁などの設置を進めプライバシーに配慮したい。現在、24時間体制で職員が避難者に対応している」。

「個人的なスペースがなく、プライバシーが守れないため、今後は簡易壁などの設置を進めプライバシーに配慮したい。現在、24時間体制で職員が避難者に対応している」。

「個人的なスペースがなく、プライバシーが守れないため、今後は簡易壁などの設置を進めプライバシーに配慮したい。現在、24時間体制で職員が避難者に対応している」。

探る tanbō

「個人的なスペースがなく、プライバシーが守れないため、今後は簡易壁などの設置を進めプライバシーに配慮したい。現在、24時間体制で職員が避難者に対応している」。

「個人的なスペースがなく、プライバシーが守れないため、今後は簡易壁などの設置を進めプライバシーに配慮したい。現在、24時間体制で職員が避難者に対応している」。

「個人的なスペースがなく、プライバシーが守れないため、今後は簡易壁などの設置を進めプライバシーに配慮したい。現在、24時間体制で職員が避難者に対応している」。

「個人的なスペースがなく、プライバシーが守れないため、今後は簡易壁などの設置を進めプライバシーに配慮したい。現在、24時間体制で職員が避難者に対応している」。

トランポリン同好会

「個人的なスペースがなく、プライバシーが守れないため、今後は簡易壁などの設置を進めプライバシーに配慮したい。現在、24時間体制で職員が避難者に対応している」。

「個人的なスペースがなく、プライバシーが守れないため、今後は簡易壁などの設置を進めプライバシーに配慮したい。現在、24時間体制で職員が避難者に対応している」。

「個人的なスペースがなく、プライバシーが守れないため、今後は簡易壁などの設置を進めプライバシーに配慮したい。現在、24時間体制で職員が避難者に対応している」。

「個人的なスペースがなく、プライバシーが守れないため、今後は簡易壁などの設置を進めプライバシーに配慮したい。現在、24時間体制で職員が避難者に対応している」。

「個人的なスペースがなく、プライバシーが守れないため、今後は簡易壁などの設置を進めプライバシーに配慮したい。現在、24時間体制で職員が避難者に対応している」。



美しい跳躍を見せる水谷さん。今年8月にはインカレの決勝に進出した(9月27日、中央体育館体操場)

「個人的なスペースがなく、プライバシーが守れないため、今後は簡易壁などの設置を進めプライバシーに配慮したい。現在、24時間体制で職員が避難者に対応している」。



社会学類の説明会で模擬授業に聞き入る高校生たち(8月2日、1H棟)

「個人的なスペースがなく、プライバシーが守れないため、今後は簡易壁などの設置を進めプライバシーに配慮したい。現在、24時間体制で職員が避難者に対応している」。

Who's Who?

ウェブで国産デニムの魅力伝える

山脇耀平 さん (社学4年)



黒ベンガラで染色したジーンズを持つ山脇さん (9月7日、中央図書館で)

岡山県などで作られた国産ジーンズの魅力を伝えるウェブサイト「EVE RY DENIM」を、昨年12月から運営している。同県は国内有数のジーンズの産地だが、生産工場の労働環境は近年悪化している。国産ジーンズの魅力をより多くの人に知ってもらい、現状の改善につなげるのが活動の目的だ。

きっかけは、2年前に弟の舜介さん(岡山大学3年)が岡山県のジーンズ工場を見学し、本人から話を聞いたことだ。同県は国産ジーンズの発祥地で、1960年代から高品質のジーンズを作り続けている。世界的にも評価が高く、海外の高級ブランド製品に生地が使われることもある。だが近年、海外製品に押されて国内の工場は激減。残った工場は低コストでの生産を強いられ、加工職人の賃金は決して高くない。後継の人材も不足している。

国産デニムの保護目指す 独自ブランドも立ち上げ

取材では、職人から不満の声も聞いた。基本的な工場は、メーカーに指示されたデザインに従って製品を作る。そのため職人は、自分で製品を考えても提案する場がないのだという。だが、長年の経験から生まれるアイデアもある。例えば、瓦などに使用される天然染料「黒ベンガラ」で黒染めしたジーンズ。通常、ジーンズの着色には化学染料を使うが、黒ベンガラは自然に由来するため環境にやさしい。更に、独特の深い色合いを持つ。取材した職人は、より良い色を追求する中でこの染料に注目。2年間の試行錯誤の末、世界で初めて黒ベンガラでジーンズを染色するのに成功した。だが、製品化には結びついていなかった。

そこで、職人のやりがいにつなげるべく、3月に独自のジーンズブランドの立ち上げを提案した。職人の発想を生かした製品を作り、来年1〜3月ごろからネットショップで販売する予定だ。ネット販売には、職人にとって大きな利点がある。メーカーからの発注生産と異なり元請け業者がいらないため、職人がより多くの対価をもらえるのだ。

ショップ開設に向け、9月からネット上で資金を募っている。全国から支援が集まり、5日間で目標金額の88万円を達成。現在も支援金は増えており、10月1日時点で約130万円が集まっている。取り組みが岡山の新聞に取り上げられるなど、地元期待も高まっている。

編集後記

9月21日、多くの家屋が浸水被害に遭った常総市に足を踏み入れました。曲がった電柱に冠水した道路は、景観を損ねるだけでなく、処分費用に多額の共益費が使われていると聞きます。こちらは「やむを得ず」という文言は通用しません▼不法投棄の抑制につながることを願いながら、今後も報道を重ねていきます。(副編集長 新田明夏II 社会学類3年)

次号は

11月2日(月)

発行予定です

B i V i つくば オープン



情報発信の拠点となる筑波大学サテライトオフィス (9月4日、B i V i つくばで) = 石川泰行撮影

2面へ

夏休みアート・デイキャンプ



大学生からアドバイスを受ける小学生 (7月18日、5C棟で) = 佐々木悠里撮影

5面へ

全日本高校・大学ダンスフェスティバル



文部科学大臣賞を受賞したダンス部 (8月7日、神戸文化ホールで) = 同部提供

8面へ

鳥人間コンテスト



琵琶湖上空を飛ぶ「鶴鶴」 (7月25日、滋賀県彦根市で) = 岡田優太撮影

10面へ

学内総合

学芸

スポーツ

学生生活